

いふ、久安年中茂ふりし事、年代記二

見へたり

一七日別而鳴事つよく、土をうこかし（動かし）、

大地震之ことし、戸障子くわらくわらと

鳴り、北石とまり迄、其日二三度押出し、

鎌原村ニ而先年の石とまる故に、夫より下へ

押出すへくとは夢ニ茂思わす、たゝ

石ふると計（ばかり）あんじ（案じ）、人々土蔵・岩穴

杯（など）心掛置と也

一七日の暮方より上州・信州山々嶽々より里雲

浅間山より布をつる（吊る）ことく、光もの東西江

飛而、人の形乃（の）ことくなる者、草津白根・